

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

奥の細道
むすびの地
大垣

令和七年十二月度 入賞句一覧

投句数 千百五十七 句

小中学生の部

高木 佐知子 選

特選

ぼくはもう秋の七草おぼえたよ

大垣市 佐々木 悠（小四）

秋の野山を彩る代表的な植物が秋の七草といわれています。女郎花（おみなえし）、薄（すき）、桔梗（ききょう）、撫子（へなでしこ）、藤袴（ふじばかま）、葛（くず）、萩（はぎ）という植物の名を覚えて、すらすらと言う作者の誇らしげな表情が、「ぼくはもうかから読み取れます。「おすきなふくは？」という覚え方があるので、どのように覚えたのですが、どのようになってきたくなります。読み手も覚えたくなることでしょう。やる気を起させる一句になつてください。

カメムシがせんたくものから出てきたよ

大垣市 戸田 台晟（小二）

お天氣の良い日は、洗濯物を外に干します。しかし夕方になると少し寒くなる日もあるでしょう。そんな時、カメムシは暖かい場所を探して洗濯物の中になると少しあります。見つけた時に慌てて触ると悪臭を放ちます。そつとティッシュにつつみ外へ出します。多くの人が経験することを俳句の種にしたことで、その通り！と共感できる一句になります。

あきの木はいろづいた葉をだいて立つ

岡山県倉敷市 岡崎 あおば（小三）

秋が深まり気温が急激に下がると、木々が紅葉するといわれています。赤や黄色、オレンジ色などに色づいた木立が、あちらこちらで見られる光景は本当に美しいです。きれいに色づいた葉をしつかりと抱いて立つという、木があたかも人間であるかのように表現しているところが擬人法（げいじんぽう）ですが、力強さと情愛を表しているように感じます。やがて落葉となつて色づいた葉が散るところも見えてくるような素敵な一句です。

秀逸

ふろあがりアイスを一口あたりでた

大垣市 高木 萩矢（小三）

さわやかにながれるかわにささぶねを

大垣市 山田 瑞歩（小四）

冬のかぜ吹くだけてんをうならせる

大垣市 香村 悠月（小五）

みかん食べきいろくなつた大きな手

大垣市 澤田 健吾（小五）

いちようのはきいろいろそまるさんぽみち

大垣市 上野 愛月（小四）

かじかむ手は一つと息をふきかける
秋はじめどく書が進み時すぎる

大垣市 野崎 友里（小六）

ピカピカとイルミネーション目もひかる

大垣市 小坂 茅佐（小六）

どんぐりをひろいにいくとまだあった

クリスマスぼくのきもちはとどくかな

大垣市 川さき りおな（小三）

日び野 陽太（小三）

こやす ひろと（小三）

入選

ふくわらいめとくちあわせばばのかお

秋涼し優秀作文朗読す

特別なリンゴケーキの誕生日

鱈雲トロンボーンの音ひびく

おおみそかおすしがだいのにんきもの

クリスマスキラキラひかるまちのなか

かぜふいてギンナンのみが落ちてくる

かぞくがねせまいこたつをとりあつこ

運動会ゴール目前ずつこける

かかしあん田んぼを守りお手つだい

むしのこえチンチロチンとうたつたよ

あきのかわふねがゆらゆらおちそうだ

ふなくだりいつもとちがうあきのかわ

どこにでも食べあとあるぞくまのあと

いえのにわまいとしほつたさつまいも

こたつでねテレビ見ながら毛糸編む

やきいものにおいただようはらべこだ

おせちはねおいしい数の子もういつこだ

ゆらゆらとなびき輝く黄金稻

水門川うかぶ水鳥ゆつたりと

小中学生の部

さとう 咲帆（小二）

中村 朱里（小四）

陸田 峻生（小四）

市川 棋一（小六）

大垣市 大脇 知晃（小二）

おく田 こう矢（小三）

富田 精佑（小三）

松岡 采音（小三）

佐藤 祐（小四）

荒谷 桃我（小四）

久野 菜々美（小四）

内とう しゅう一（小四）

松本 柚希（小四）

高木 茉乃（小五）

亀谷 勇人（小五）

北川 凌大（小五）

川瀬 妃桜（小六）

松田 葉奈（小四）

伊藤 里依香（小六）

井口 晓雅（小五）

揖斐郡池田町

大垣市

大垣市 川瀬 妃桜（小六）

大垣市 松田 葉奈（小四）

大垣市 伊藤 里依香（小六）

小春日や手帳にひろふ葉の欠片

選者吟



佐知子